

JILPT 資料シリーズ

No.165 2016年3月

職業相談場面におけるキャリア理論及び カウンセリング理論の活用・普及に関する文献調査

職業相談場面におけるキャリア理論及び
カウンセリング理論の活用・普及に関する文献調査

ま え が き

本資料シリーズは、近年、進展の著しいキャリア理論・カウンセリング理論の最新の学説・研究動向等を中心に文献調査研究を行い、基礎的・伝統的な理論的動向も含めた形で各種の学説・理論動向を網羅的に収集・集約し、おもに職業相談場面において広く活用可能な形で整理し、取りまとめることを目的とした。

この文献調査研究は、例えば、産業競争力会議雇用・人材分科会の中間整理において「ハローワークの質の向上」として「職員にキャリア・コンサルタントの資格取得を促す」とされたことなどを受け、今後一定年限のうちに職員の一定割合にキャリア・コンサルタント資格を取得させる必要性なども見据えた形で開始された。そのため、職業安定行政職員にとって、今後、特に必要となる最新の学説や理論動向を中心に取り上げ、その理解を促進し、職業相談の現場における活用方法を理解させる等、積極的に理論の習得に向かわせていくことが可能なように企図された。

具体的手法としては、従来、労働行政において必ずしも十分に紹介されてこなかった新たなキャリア理論・カウンセリング理論の動向などを取り上げて、紹介することとした。特に、最近のキャリア心理学、キャリアカウンセリング論、キャリアガイダンス論に関する国内外の書籍の文献調査の結果から、これまでのテキスト類では十分に上げられてこなかった若干、新しい理論動向を中心に取り上げた。その際、個々の理論の煩瑣な解説は必要最小限に絞り込み、次なる学習への導入の役割を果たすものとすべく、理論概要および図表を各章で加えて、理解を助けるものとした。さらには、各理論が職業相談場面でどのように効果的に活用されるのかについても原稿に含めることとした。その上で、最新の理論動向に詳しい若手中堅の執筆者を招き、昨今の理論動向について、あまり制限や制約のない形で自由に健筆を振るっていただいた。

結果的に、本資料シリーズは、従来、労働行政において紹介されてきたキャリア理論・カウンセリング理論に関する刊行物とは一線を画する専門性と網羅性を兼ね備えた質の高い内容を盛り込むことができたと考える。

本資料シリーズが、職業相談場面をはじめとして様々な場面で有効な資料として活用され、職業相談の理論的な進展に貢献できれば幸いである。

2016年3月

独立行政法人 労働政策研究・研修機構
理事長 菅野和夫

担 当 者 (五十音順)

氏 名	所 属
あらめまき 新 目 真 紀	職業能力開発総合大学校能力開発院准教授
うめむらけいじ 梅 村 慶 嗣	駿河台大学キャリアセンター専任講師
かやのじゅん 榎 野 潤	労働政策研究・研修機構キャリア支援部門主任研究員
かるべゆうき 軽 部 雄 輝	筑波大学大学院人間総合科学研究科3年制博士課程
しもむらひでお 下 村 英 雄	労働政策研究・研修機構キャリア支援部門主任研究員
たかはしひろし 高 橋 浩	ユースキャリア研究所、法政大学講師
ながさくみゆる 永 作 稔	駿河台大学心理学部准教授
まつだゆうこ 松 田 侑 子	弘前大学教育学部専任講師
みずのまさし 水 野 雅 之	国立精神・神経医療研究センター流動研究員
わたなべしょうへい 渡 部 昌 平	秋田県立大学総合科学教育研究センター准教授

※執筆分担箇所は各章末に表示

目 次

はじめに

1. 本書の目的および作成過程	1
2. キャリア理論・カウンセリング理論を知る意義	3
3. 各章の構成および特徴	6

I キャリア理論編

1 パーソンの職業選択理論	13
2 スーパー①ーキャリア自己概念	16
3 スーパー②ーキャリア・レインボー	19
4 フォンドラセックらの職業発達理論モデル	22
5 ホランドの6角形モデル	25
6 キャリア意思決定理論	28
7 キャリア自己効力感①ーバンデューラの4つの情報源	31
8 キャリア自己効力感②ー社会認知的キャリア理論	34
9 自己決定理論	37
10 「やりたいこと」志向	40
11 認知的情報処理理論	43
12 プランド・ハップンスタンス理論	46
13 キャリア・カオス理論	49
14 サヴィカス①ーキャリア構築理論	52
15 サヴィカス②ーキャリア構築インタビュー	55
16 社会構成主義と心理的構成主義	58
17 質的キャリア・アセスメント	61
18 精神性（スピリチュアリティ）のキャリアカウンセリング	64
19 文化に配慮したキャリアカウンセリング	67
20 シャインの組織内キャリア発達理論	70
21 クラムのメンタリング理論	73
22 シュロスバーグのキャリア理論	76
23 ピーヴィーのソシオ・ダイナミック・カウンセリング	79
24 キャリアカウンセリング・プロセス	82

II カウンセリング理論編

1 カウンセラーに求められる基本的態度①	87
2 カウンセラーに求められる基本的態度②	90

3	カウンセラーに求められる基本的態度③	93
4	カウンセリング技法1（非言語）	96
5	カウンセリング技法2（言語）	99
6	精神分析的アプローチ（防衛機制）	102
7	アドラー心理学	105
8	交流分析	108
9	クライアント中心療法①ーその世界観	111
10	クライアント中心療法①ー人格の変化の方向性	114
11	フォーカシング	117
12	構成的グループエンカウンター	120
13	応用行動分析	123
14	認知行動的アプローチ（基礎）	126
15	認知行動的アプローチ（応用）	129
16	ソーシャルスキル・トレーニング	132
17	コミュニティアプローチ①	135
18	コミュニティアプローチ②	138
19	ブリーフセラピー	141
20	解決志向カウンセリング	144
21	グループ・ファシリテーション	147
22	動機づけ面接	150
23	ポジティブ心理学	153
24	ナラティブ・アプローチ	156

Ⅲ ガイダンス理論編

1	日本のキャリアコンサルティング施策	161
2	日本のキャリア教育施策	164
3	管理者としてのカウンセリング論	167
4	キャリアガイダンスのデリバリー・セグメント・コスト	170
5	社会正義のキャリアガイダンス論	173